

## 鈴木善幸氏の歩み

昭和22年4月	衆議院議員初当選
27年11月	自治政務次官
33年6月	地方行政委員会委員長
35年7月	第1次池田内閣で郵政大臣
39年7月	第3次池田改造内閣で内閣官房長官
40年6月	第1次佐藤改造内閣(1)で厚生大臣
41年8月	第1次佐藤改造内閣(2)で厚生大臣
42年3月	社会保障制度審議委員
43年12月	宇宙開発審議会委員長
44年5月	自由民主党総務会長(以後通算10期)、国土開発幹線自動車道建設審議会委員
46年9月	鉄道新線建設促進議員団会長
47年3月	衆議院より永年在職議員として表彰
49年7月	小野田元少尉救出謝礼政府特派大使としてフィリピンに派遣
10月	政府特使として原子力船「むつ」問題を解決
51年12月	福田内閣で農林大臣
52年2月	日ソ漁業交渉で3回にわたリソ連を訪問
55年6月	宏池会代表
57年7月	第70代内閣総理大臣に就任
56年1月	「北方領土の日」(2月7日)閣議決定
3月	第2次臨時行政調査会発足
57年9月	鈴木首相郷土入り。山田町名誉町民の称号が授与される
10月	自民党総裁選不出馬を表明
11月	鈴木内閣総辞職。在任期間2年4カ月
61年7月	衆参同日選挙で連続16回の当選果たす。宏池会代表を退任
平成2年1月	政界を引退。衆議院議員在籍期間43年



トラックを使って行われていた昔の選挙活動の様子。写真左は応援演説を聞く鈴木善幸氏＝写真提供・鈴木俊一事務所＝

東北地方の発展と漁業の振興に力を尽くす

# 「漁民宰相」の誕生

政治の世界へ進んだ鈴木善幸氏は、水産施策や交通網の整備などに尽力し、東北地方の発展に大きく貢献します。一方、政党内でも抜群の調整力を発揮し、昭和55年には内閣総理大臣に就任。当時破たん寸前といわれた国家財政を立て直すため行政改革に取り組み、再建へと導く路線を敷きました。



昭和55年7月、衆議院本会議の席上で開かれた首班指名選挙で過半数を得て総理に選ばれた鈴木善幸氏(写真中央)＝写真提供・鈴木俊一事務所＝

鈴木善幸氏は、昭和22年4月の総選挙で旧社会党から出馬し初当選、24年1月の衆院選では民主自由党から出馬し当選しました。自民党結成後は昭和35年の第3次池田内閣に郵政大臣として初入閣。39年には官房長官を務めました。40年に佐藤内閣で厚生大臣、43年には自民党総務会長に就任。以後佐藤、田中大平各政権で通算10期にわたって総務会長を務め、党内の調整役として手腕を発揮しました。また、51年には福田内閣で農林大臣として、北方領土問題などが絡んだ日ソ200海里漁業交渉などを手掛けました。

### 水産施策創設などに尽力

衆議院議員となった鈴木善幸氏は、まず安全に漁ができるよう漁港を整備しなければならぬと考え、漁港法(現漁港漁場法)の制定に取り組みました。日本は当時GHQ(連合国軍総司令部)の支配下にあり法律制



首相就任後初の郷土入りを果たし、会場に詰め掛けた8,000人の町民に応える鈴木総理。胸に下げられている勲章は、この日木下禎治町長(当時)から授与された山田町名誉町民のもの

定は困難を極めました。GHQを説得し議員立法で漁港法の成立にこぎつけました。このほか、戦後のあらゆる水産政策・制度の創設、東北新幹線や三陸鉄道などの交通網の整備にもかかわらず、漁業と東北地方の発展に多大な功績を残しました。

### 「和の政治」掲げ首相就任

55年7月、鈴木善幸氏は大平首相の急死を受けて第10代自民党総裁に選ばれ、第70代内閣総理大臣に就任しました。政治信条に「和の政治」を掲げ、当時破たん寸前といわれた国家財政を立て直すため「増税なき財政再建」を打ち出し、臨時行政調査会の設置、「ゼロ・シーリング」の導入、3公社の分割・民営化への路線を敷くなど行政改革に取り組みました。また、参院選に比例代表選挙制を導入しました。57年10月、再選確実と思われていた矢先に鈴木総理は辞意を表明。翌11月に鈴木内閣が総辞職し、首相在任期間は約2年4カ月となりました。

平成2年1月には政界を引退。衆議院議員在籍は43年に及びました。引退後も県漁港協会会長として平成11年まで漁港検診で沿岸各地を訪れ、その温和な表情と人柄で、国民からは「善幸さん」と親しまれ続けました。

郷土入りした鈴木総理に花束を手渡した  
竹内恵子さん  
(織笠・56歳)



善幸さんが総理大臣に就任した翌日に娘が生まれ、病院でニュースを見たのを覚えています。娘には善幸さんのように温和な人柄で、さち婦人のように賢く育ててほしいと願い、「さちこ」と名付けました。2年後の郷土入りのときに娘と花束を渡しましたが、その時の印象がよほど強かったのか、娘はその後しばらく紅白の幕を見て「善幸さん」と言っていました。また、仙人峠で路面が凍結して車が登れなかったとき、選挙運動で偶然通りかかった鈴木俊一事務所のスタッフの方に助けていただいたことがあり、何か不思議なご縁を感じています。